

様式第7号（第8条関係）

伊予市入札監視委員会定例会議（第2回）議事概要

開催日時及び場所		令和8年1月22日（木）午後2時00分 伊予市役所 2階 会議室1	
出席委員の氏名及び職業		委員長 渡邊 政広（前愛媛県建設技術支援センター 理事長 愛媛大学名誉教授） 委員 西田 和真（西田和真税理士事務所 税理士） 委員 佐藤 清志（佐藤法律事務所 弁護士） 委員 北田 隆（北田隆事務所 公認会計士）	
対象期間		令和7年4月1日～令和7年9月30日	
抽出案件		総件数5件	（備考） 抽出方法 入札契約方法別に無作為 に案件を抽出。 佐藤委員が案件を抽出。
内 訳	一般競争入札	2件	
	指名競争入札	2件	
	随意契約	1件	
委員会からの意見・質問と それに対する回答等		意見・質問	回答等
		別紙のとおり	別紙のとおり
委員会意見の内容		無作為に抽出した5案件について、それらの入札及び 契約手続き等が適正に執行・運用されているか審議した 結果、疑義は何ら生じなかった。	

伊予市入札監視委員会定例会議議事概要別紙（事案No.1）

契約方法	一般競争入札
件名	八倉系配水管布設替工事（下吾川工区）
履行場所	伊予市下吾川地内
種別	水道施設
概要	<p>配水管</p> <p>DIP (GX) φ300 L=399.0m</p> <p>DIP (GX) φ150 L=2.8m</p> <p>PE (EF) φ150 L=3.7m</p> <p>DIP (GX) φ100 L=9.7m</p> <p>PE (EF) φ100 L=89.4m</p> <p>PE (EF) φ50 L=46.4m</p>
意見・質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・入札6者の各評価項目の得点結果を教えよ。また、落札業者は他の者に比べどの点が高く評価されたのか。 ・各入札業者の施工体制確認点と各評価項目の得点合計を教えよ。 ・落札者を含め4者は、ほぼ同一価格帯の入札であるが、評価値の差異はどのような点か。 ・評価者の構成はどのようなメンバーであったのか。 ・落札者は、本社をどこに置いているか。また、何等級の業者であるか。 ・B等級業者からの応札はあったか。 ・施工体制確認点はいかなる基準によって採点するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各評価項目の得点結果は別紙の評価値算出表のとおりであり、落札業者は主に、施工能力、配置予定技術者についての評価が高い結果となっている。 ・別紙の評価値算出表のとおりである。 ・配置予定技術者における保有資格、継続学習の取り組みに対する評価に差異が生じている。 ・評価については、各応札者から提出された資料に基づき、入札担当課にて評価値を算出している。 ・松山市に本社を置くA等級の事業者である。 ・1者の応札があった。 ・品質確保の実効性、施工体制確保の確実性について評価するもので、伊予市建設工事総合評価落札方式実施要領第6条第3項に基づき、入札説明書等に記載された要求要件を実現できると認められる場合に、その確実性に応じて満点を各10点とし、3段階で評価を行っている。

伊予市入札監視委員会定例会議議事概要別紙（事案No.2）

契約方法	一般競争入札
件名	AI水道管路劣化診断業務
履行場所	伊予市上水道施設区域内
種別	その他業務
概要	AI水道管路劣化診断 L = 250 km
意見・質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・有資格者数が2者と少ないが、もう少し入札資格範囲を広げることではできなかったのか。 ・解析結果の信頼度は、どのようにして判断するのか。 ・応札者のAI診断の能力はどのように判断したのか。また、水道工事業務における実績の有無はいかなる方法により確認するのか。 ・落札率がかなり低い、その理由としてはどんなことが考えられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本件については、専門性の高い業務のため実績を有することを参加資格要件とした。全国の事業者を対象にするなど広く公募を行ったが、結果、2者の応札となった。（参加資格を満たしている事業者数を6者から7者見込んでいた） ・過去の漏水履歴を効率よく捕捉した診断モデルを選定することでその解析結果の有用性が確認できると判断する。また、管路劣化診断結果は今後の管路更新計画を行う時の参考資料として活用するものである。 ・落札候補者から提出された参加資格確認申請書及び添付書類について確認し、参加資格の審査を行っており、実績については、同種業務の契約書、仕様書により確認している。 ・他自治体において、AIを活用した劣化診断の導入が進められている中で価格競争が激しく、また、実績づくりの観点から受注意欲を示したものと考えられる。

伊予市入札監視委員会定例会議議事概要別紙（事案No.3）

契 約 方 法	指名競争入札
件 名	日喰橋補修工事
履 行 場 所	伊予市双海町大久保地内
種 別	土木一式
概 要	橋梁補修 N = 1 橋 ひびわれ補修工 N = 1 式 断面修復工 N = 1 式 表面含浸工 N = 1 式
意見・質問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 落札業者は何等級であるか。 ・ 辞退者が半数近くと多いようだが、辞退理由を把握しているか。また、考えられる理由はあるか。 ・ 工事の具体的内容はいかなるものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A等級である。 ・ 「手持ち工事も多く人手不足であるため」と把握している。 ・ 本橋は架設後50年以上経過（1967年架設）しており老朽化が著しいため、ひびわれ補修（注入材料を注入しひびわれを閉塞する）や断面修復（欠損している断面を元通りに修復する）、表面含浸（コンクリート表面に含浸材を塗布し、撥水効果を付与することで劣化因子の侵入を抑制する）等を施工するものである。

伊予市入札監視委員会定例会議議事概要別紙（事案No.4）

契 約 方 法	指名競争入札
件 名	郡中小学校21教室棟長寿命化改良工事設計業務
履 行 場 所	伊予市上吾川地内
種 別	建設コンサルタント
概 要	下記、小学校の長寿命化改良に伴う設計業務 郡中小学校21教室棟 RC造3階 S=3, 582m ²
意見・質問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・同種の長寿命化設計業務は今後も市内の他の小中学校で発生するのか。 ・協議会の構成メンバーを教えよ。 ・工事の具体的内容について教えよ。 ・対象が学校の教室等であるということに伴う工事内容の特殊性はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後についても、長寿命化計画に基づき優先度の高いものから順に実施していく予定である。 ・協議会は、副市長、総務部長、会計管理者及び入札担当課長（財政課長）をもって組織している。 ・建物一棟全体を長寿命化改良する工事で、構造体の補強工事（コンクリートの中性化対策、鉄筋の腐食対策、鉄筋のかぶり厚さの確保）及び水道、電気ガス管等のライフラインの更新を行うもの。 ・学校を使用しながらの工事となるため、設計には学校への最大限の配慮と綿密な打ち合わせが必要である。ランドセル、バック等の生徒の持ち物のサイズが変わってきており、ロッカー改修など教室内部の改造が生じるため、使用頻度の少ない教室を一時的に使用するなどの対策、また、撤去工事を伴うことから、騒音や安全面を考慮し施工工程を夏季休暇等に集中させるなど、様々な検討及び調整が必要となる。

伊予市入札監視委員会定例会議議事概要別紙（事案No.5）

契 約 方 法	随意契約
件 名	マテリアルリサイクル推進施設等整備工事設計業務
履 行 場 所	伊予市三秋地内
種 別	建設コンサルタント
概 要	<p>1. 基本設計業務</p> <p>(1) 設計条件の整理</p> <p>(2) 基本設計案の作成</p> <p>(3) 基本設計図の作成</p> <p>(4) 工事費概算書の作成</p> <p>2. 実施設計業務</p> <p>(1) 地質調査業務の補助</p> <p>(2) 許認可申請業務の支援</p> <p>(3) 敷地測量図の作成</p> <p>(4) 実施設計図の作成</p> <p>(5) 設計書の作成</p> <p>(6) 建築確認申請書等の作成</p> <p>(7) 透視図の作成</p>
意見・質問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルに公募したのは何者であったか。 ・公募してきた業者が少数であった理由は何が考えられるか。内容的に難易度の高い業務ということか。 ・プロポーザルの採点結果を教えよ。 ・落札業者は他の公募者と比べどの点が良かったのか、具体的に説明を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2者である。 ・ご指摘の通り本業務は非常に難易度が高いものと認識している。特にプラント設備の解体は一般的な建築物の解体とは異なり、特殊なノウハウや高度な安全管理が求められることから、こうした業務の特性が応募者数に影響を与えた可能性として考えられる。 ・委員8名による採点合計は、落札業者245.0点、B社207.4点であった。（280点満点） ・落札業者の提案は、特に「既存施設の解体計画」及び「コスト抑制と環境配慮の両立」において、他者よりも極めて具体的かつ論理的であった。主な評価ポイントは次のとおりである。 ○解体プロセスが、躯体の解体順序において構造上の特性を考慮しつつ、ダイオキシンやアスベストの

<p>・「解体工事」仕様作成業務と「推進施設整備工事」設計業務を一体で発注された理由を教えよ。</p>	<p>除去を並行して行う手順が非常に理にかなっていた。</p> <p>○安全・環境対策として、石綿（アスベスト）やダイオキシンの飛散防止対策が徹底されており、周辺環境や地元住民への配慮が多面的に示されていた。</p> <p>○コストの削減について、構造物をどのように残して解体するか、また施工の効率化をどう図るかという点で、金額を抑制するための裏付けが論理的に説明されていた。</p> <p>○付加価値の創出について、多面的な価値創出を見据えた施設整備案となっていた。</p> <p>・主な理由は、施工の連続性及び整合性の確保による効率化・コスト削減である。具体的には、解体工事と新設工事は同一敷地内で実施となるため、金額、施工方法、工期、安全管理を個別に検討すると、現場が一か所に集中して込み合い不都合が生じるリスクが高くなることから、一体で計画する必要がある。解体と新設を並行して進める（ローリング）計画としており、同一者が設計を行うことで、最も効率的かつ安価な工事発注が可能と考えます。また、既存の残置杭の扱いは、新設する施設の基礎構造に直結することから、設計を同一にすることで構造上の矛盾を防ぎ、確実な施設整備を実現するため、一括発注とした。</p>
---	---